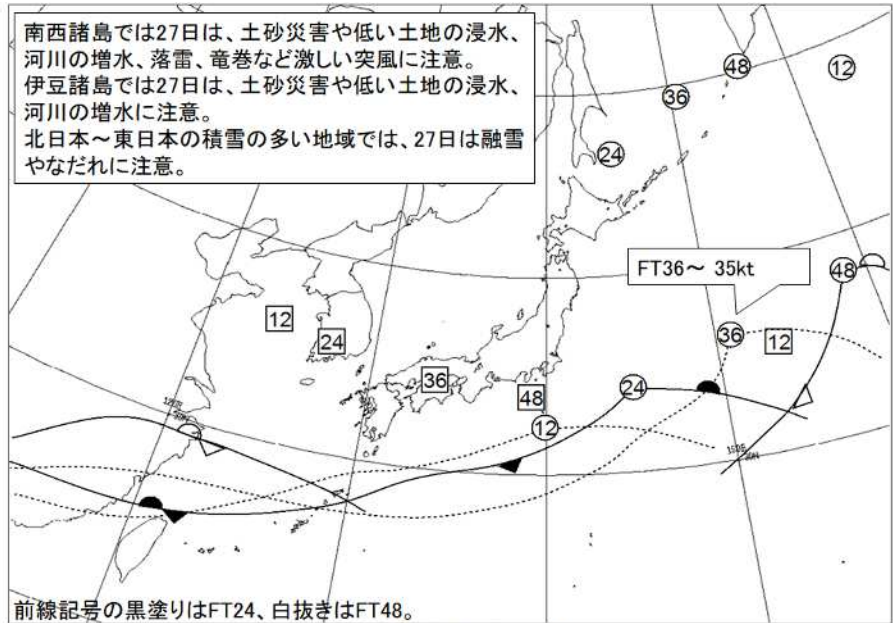


## 1. 実況上の着目点

- ① 前線が華南から南西諸島付近を通り日本の東にのびている。この前線に向かって下層暖湿気(26日21時の石垣島の高層観測では850hPa  $\theta_e$  347Kを観測)が流入して大気の状態が非常に不安定となっており、南西諸島付近では雷を伴い1時間50ミリ以上の非常に激しい雨を解析している。
- ② 衛星画像(ダスト画像)では、日本海～北日本にかけて黄砂の飛来が確認できる。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の前線上に向かって、850hPa  $\theta_e$  336K以上の下層暖湿気の流入が続き、南西諸島では27日は大気の状態が非常に不安定となる。このため、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項①の前線上の日本の南でキンクが発生し東北東進。27日朝までにキンク上に低気圧が発生し伊豆諸島付近を通過、27日夜にかけて日本の東へ進む。この低気圧や前線の影響で、伊豆諸島では27日は大気の状態が不安定となり、強い雨が降って大雨となる可能性がある。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意。
- ③ 日本の東に中心を持つ高気圧の縁辺をまわる暖かい空気の影響により、北日本～東日本では27日は850hPaの気温が平年と比べて10℃程度高い状態が続く。このため北日本～東日本を中心に、気温が上がり真夏日になる所もある見込み。暑さに慣れていない時期のため、熱中症などの健康管理に注意。また、多雪地では、融雪やなだれにも注意。
- ④ 1項②の黄砂について、北日本では27日は、黄砂の飛来の影響により視程が10km未満となる所がある見込み。視程の悪化による交通障害に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ①大雨ポテンシャル(06時から24時間)：沖縄100mm。
- ②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

## 5. 全般気象情報発表の有無

発表予定はない。